

4) 3)で「施設外」に1つでも「○」をつけた方にお聞きします。施設外とは具体的にどこですか？  
お書きください。

[ ]

5) 3)で「施設外」に1つでも「○」をつけた方にお聞きします。参加費の自己負担はありましたか？

1. なし      2. 一部負担あり      3. 全額負担あり

6) **新人にかかわらずスタッフの人材育成や指導技術に関する研修を受講した方**にお聞きします。

あなたが参加した研修内容について具体的にお書きいただき、主催者、参加形態、参加費負担については、該当する項目に「○」をつけてください。

研修内容	期間(日) ・時間	主催者	参加形態	参加費の負担
		1. 施設内 2. 施設外 ( )	1. 勤務扱い 2. 勤務扱いで <u>ない</u>	1. 全額負担 2. 一部負担 3. 無
		1. 施設内 2. 施設外 ( )	1. 勤務扱い 2. 勤務扱いで <u>ない</u>	1. 全額負担 2. 一部負担 3. 無
		1. 施設内 2. 施設外 ( )	1. 勤務扱い 2. 勤務扱いで <u>ない</u>	1. 全額負担 2. 一部負担 3. 無
		1. 施設内 2. 施設外 ( )	1. 勤務扱い 2. 勤務扱いで <u>ない</u>	1. 全額負担 2. 一部負担 3. 無
		1. 施設内 2. 施設外 ( )	1. 勤務扱い 2. 勤務扱いで <u>ない</u>	1. 全額負担 2. 一部負担 3. 無
		1. 施設内 2. 施設外 ( )	1. 勤務扱い 2. 勤務扱いで <u>ない</u>	1. 全額負担 2. 一部負担 3. 無

Q13 新人看護職員の実地指導者に関する研修についてご要望等がありましたら、お書きください。

1) 研修内容について

[ ]

2) 研修期間について

[ ]

3) その他

[ ]

Q14 あなたの部署の新人看護職員の指導方法、3)についてはその指導方法を用いている期間についてお聞きいたします。

1) 研修手帳（研修ファイル）等が準備されていますか。

1. ある      2. ない

2) 研修手帳（研修ファイル）等を活用していますか。

1. 活用している      2. 一部活用している      3. 活用していない

3) 次の指導方法があるかどうか、該当する方に○をつけてください。あると回答した場合、その期間についてお答えください。

指導方法	ある・なし	期間（就職後いつまで）
OJT（業務をしながらの指導）	ある・なし	（      ）カ月 まで
新人業務マニュアルを用いた指導	ある・なし	（      ）カ月 まで
シャドウイングを中心とした指導	ある・なし	（      ）カ月 まで
その他（上記以外に何かありましたら、お書きください）		

4) あなたの部署で、新人看護職員が夜間勤務を開始する時期は、通常いつ頃ですか。

		プラス1の配置での夜勤配置	夜勤の正規人員での配置
3 交代勤務の施設の場合	準夜勤務	（      ）月頃～	（      ）月頃～
	深夜勤務	（      ）月頃～	（      ）月頃～
2 交代勤務の施設の場合		（      ）月頃～	（      ）月頃～

Q15 新人看護職員を直接指導する看護職員について、該当する番号に○印をつけてください

1. 指導する看護職員は固定して決まっている      2. その日の勤務者の中で指導者を決める

Q16 新人看護職員の到達度の評価者について、該当する番号に○印をつけてください。

1. その日の指導者      2. 決められた実地指導者      3. 教育担当者

Q17 新人看護職員研修期間として設定されている期間をお答えください。

部署における新人看護職員研修期間      採用後から      （      ）か月間

Q18 あなたは実地指導者として、誰からどのような支援（指導技術、精神的な支援など）を、どのくらいの頻度で受けているかをお書きください。

1) 支援体制（フォローアップ体制やミーティング等）の有無 有（ ） → 誰から（ ）  
無（ ） 頻度（ ）

2) 指導力向上に対する支援の有無 有（ ） → 誰から（ ）  
無（ ） 頻度（ ）

3) 精神面への支援の有無 有（ ） → 誰から（ ）  
無（ ） 頻度（ ）

4) その他 有（ ） → 内容や方法を具体的にお書きください  
無（ ） （ ）

Q19 新人看護職員研修について、1) 課題と感じていること・困っていること、2) 課題や困難と感じていることへの対応（対処）をお聞きます。

1) 課題・困難と感じていることについて、該当するすべての番号に○印をつけてください。（複数回答可）

1. 研修時間の確保ができない
2. 新人看護職員の指導方法がわからない
3. 新人看護職員の心のケアが必要である
4. 新人看護職員の負担・疲労を考慮することが難しい
5. 部署で求められる能力と看護基礎教育終了時点で期待される能力との格差が大きい
6. 新人看護職員との人間関係が難しい
7. 自分よりも年齢の上の新人看護職員を教えるのが難しい
8. 実地指導者の役割を担うことが負担である。
9. 実地指導者の役割を果たすのに時間外になってしまう
10. 他のスタッフからのサポートがない
11. 実地指導者の人材が不足している
12. 人員に余裕がない
13. その他 具体的にお書きください  
( )

2) 課題や困難と感じていることにどのように対応（対処）しているか具体的にお書きください。

IV. 新人看護職員研修ガイドラインで示されている到達目標についてお伺いします。

Q20 下記の内容は新人看護職員研修ガイドラインで示されている到達目標です。あなたが担当している新人看護職員の看護活動の頻度と到達度、そして各到達目標の妥当性とその理由について、お答え下さい。妥当性については、到達目標として高いか低いかという点、項目として使いやすかどうかという点から判断してお答えください。

1) 看護師に関する到達目標

I : できる      II : 指導の下でできる  
III : 演習でできる      IV : 知識としてわかる

看護技術についての到達目標①	★ 1年以内 に経験し 修得 を目指す 項目	到達の 目安	看護活動の実施頻度					到達度					妥当性			妥当でない という理由	
			1 全く ない	2 ほと んど ない	3 時々	4 しば しば ある	5 日常 的に ある	1 一 人 で 可 能	2 指 導 を 受 け て 可 能	3 演 習 で 可 能	4 知 識 と し て わ か る	5 わ か ら な い	1 妥 当 と す る	2 妥 当 で な い	3 わ か ら な い		
環境調整技術	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3		
	① 温度、湿度、換気、採光、臭気、騒音、病室整備の療養生活環境調整（例：臥床患者、手術後の患者等の療養生活環境調整）	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
食事援助技術	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3		
	② ベッドメイキング（例：臥床患者のベッドメイキング）	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	① 食生活支援	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3		
排泄援助技術	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3		
	② 自然排尿・排便援助（尿器・便器介助、可能な限りおむつを用いない援助を含む）	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	③ 浣腸	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3		
	④ 膀胱内留置カテーテルの挿入と管理	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3		
	⑤ 摘便	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3		
		I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3		
		I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3		

I : できる  
II : 指導の下でできる  
III : 演習でできる  
IV : 知識としてわかる

看護技術についての到達目標②	★ 1年以内 に経験し 修得 を目指す 項目	到達の 目安	看護活動の実施頻度					到達度					妥当性			妥当でない という理由	
			1 全くない	2 ほとんど ない	3 時々	4 しばしば ある	5 日常的に ある	1 一人 でできる	2 指導を 受けて できる	3 演習で できる	4 知識と してわ かる	5 わか らない	1 妥当 である	2 妥当 でない	3 わか らない		
活動・ 休息 援助 技術	① 歩行介助・移動の介助・移送	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	② 体位変換（例：①及び②について、手術後、麻痺等で活動に制限のある患者等への実地）	★	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	③ 関節可動域訓練・廃用性症候群予防		II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	④ 入眠・睡眠への援助		II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑤ 体動、移動に注意が必要な患者への援助（例：不穩、不動、情緒不安定、意識レベル低下、鎮静中、乳幼児、高齢者等への援助）		II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
清潔・ 衣生活 援助 技術（例： ①から ⑥につ いて、 全介助 を要す る患 者、ド レーン 挿入、 点滴を 行っ てい る患 者等 への 実 施）	① 清拭	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	② 洗髪		I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	③ 口腔ケア	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	④ 入浴介助		I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑤ 部分浴・陰部ケア・おむつ交換	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑥ 寝衣交換等の衣生活支援、整容	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
呼吸・ 循環を 整える 技術	① 酸素吸入療法	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	② 吸引（気管内、口腔内、鼻腔内）	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	③ ネブライザーの実施	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	④ 体温調整		I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑤ 体位ドレナージ		II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑥ 人工呼吸器の管理		IV	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	

I:できる II:指導の下でできる  
III:演習でできる IV:知識としてわかる

看護技術についての到達目標③		★ 1年以内 に経験し 修得 を目指す 項目	到達の 目安	看護活動の実施頻度					到達度					妥当性			妥当でない という理由
				1 全く ない	2 ほと んど ない	3 時々	4 しば しば ある	5 日常 的に ある	1 一人 で できる	2 指 導 を 受 け て で き る	3 演 習 で で き る	4 知 識 と し て わ か る	5 わ か ら な い	1 妥 当 で あ る	2 妥 当 で な い	3 わ か ら な い	
創傷管理技術	① 創傷処置		II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	② 褥瘡の予防	★	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	③ 包帯法		II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
与薬の技術	① 経口薬の与薬、外用薬の与薬、直腸内与薬	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	② 皮下注射、筋肉内注射、皮肉注射		I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	③ 静脈内注射、点滴静脈内注射		II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	④ 中心静脈内注射の準備・介助・管理		II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑤ 輸液ポンプの準備と管理		II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑥ 輸血の準備、輸血中と輸血後の観察		II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑦ 抗生物質の用法と副作用の観察	★	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑧ インシュリン製剤の種類・用法・副作用の観察		II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑨ 麻薬の主作用・副作用の観察		II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑩ 薬剤等の管理(毒薬・劇薬・麻薬、血液製剤を含む)		II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	

半分終了しました。  
残りのご回答も、どうぞお願いいたします。

I : できる  
II : 指導の下でできる  
III : 演習でできる  
IV : 知識としてわかる

看護技術についての到達目標④		★ 1年以内 に経験し 修得 を 目指す 項目	到達の 目安	看護活動の実施頻度					到達度					妥当性			妥当でない という理由
				1 全 く な い	2 ほ と ん ど な い	3 時 々	4 し ば し ば あ る	5 日 常 的 に あ る	1 一 人 で で き る	2 指 導 を 受 け て で き る	3 演 習 で で き る	4 知 識 と し て わ か る	5 わ か ら な い	1 妥 当 で あ る	2 妥 当 で な い	3 わ か ら な い	
救命救急処置技術	① 意識レベルの把握	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	② 気道確保	★	III	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	③ 人工呼吸	★	III	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	④ 閉鎖式心臓マッサージ	★	III	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑤ 気道挿管の準備と介助	★	III	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑥ 止血		II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑦ チームメンバーへの応援要請	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
症状・生体機能管理技術	① バイタルサイン(呼吸・脈拍・体温・血圧)の観察と解釈	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	② 身体計測		I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	③ 静脈血採血と検体の取扱い	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	④ 動脈採血の準備と検体の取扱い		I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑤ 採尿・尿検査の方法と検体の取扱い		I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑥ 血糖値測定と検体の取扱い	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑦ 心電図モニター・12誘導心電図の装着、管理		I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑧ パルスオキシメーターによる測定	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	

I : できる  
II : 指導の下でできる  
III : 演習でできる  
IV : 知識としてわかる

看護技術についての到達目標⑤	★ 1年以内に経験し修得を目指す項目	到達の目安	看護活動の実施頻度					到達度					妥当性			妥当でないという理由
			1 全くない	2 ほとんどない	3 時々	4 しばしばある	5 日常的にある	1 一人でできる	2 指導を受けてできる	3 演習でできる	4 知識としてわかる	5 わからない	1 妥当である	2 妥当でない	3 わからない	
苦痛の緩和・安楽確保の技術	★	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
		II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
		II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
		II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
感染予防技術	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
		I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
安全確保の技術	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	★	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
		II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	

2) その他、つけ加えたほうがよいという項目があれば、具体的にお書きください。

あと少しです。  
ぜひ、最後までご協力ください。

I : できる  
II : 指導の下でできる  
III : 演習でできる  
IV : 知識としてわかる

管理的側面についての到達目標		★1年以内に経験し修得を目指す項目	到達の目安	看護活動の実施頻度					到達度					妥当性			妥当でないという理由
				1 全くない	2 ほとんどない	3 時々	4 しばしばある	5 日常的にある	1 一人でできる	2 指導を受けてできる	3 演習でできる	4 知識としてわかる	5 わからない	1 妥当である	2 妥当でない	3 わからない	
安全管理	① 施設における医療安全管理体制について理解する	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	② インシデント(ヒヤリ・ハット)事例や事故事例の報告を速やかに行う	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
情報管理	① 施設内の医療情報に関する規定を理解する	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	② 患者等に対し、適切な情報提供を行う	★	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	③ プライバシーを保護して医療情報や記録物を取り扱う	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	④ 看護記録の目的を理解し、看護記録を正確に作成する	★	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
業務管理	① 業務の基準・手順に沿って実施する	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	② 複数の患者の看護ケアの優先度を考えて行動する	★	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	③ 業務上の報告・連絡・相談を適切に行う	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	④ 決められた業務を時間内に実施できるように調整する		II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
薬剤等の管理	① 薬剤を適切に請求・受領・保管する(含、毒薬・劇薬・麻薬)		II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	② 血液製剤を適切に請求・受領・保管する		II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
災害・防災管理	① 定期的な防災訓練に参加し、災害発生時(地震・火災・水害・停電等)には決められた初期行動を円滑に実施する	★	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	② 施設内の消火設備の定位置と非難ルートを把握し患者に説明する	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
物品管理	① 規定に沿って適切に医療機器、器具を取り扱う	★	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	② 看護用品・衛生材料の整備・点検を行う	★	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
コスト管理	① 患者の負担を考慮し、物品を適切に使用する	★	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	② 費用対効果を考慮して衛生材料の物品を適切に選択する	★	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	

I : できる      II : 指導の下でできる  
 III : 演習でできる      IV : 知識としてわかる

看護職員として必要な基本姿勢と態度についての到達目標		★ 1年以内に経験し修得を目指す項目	到達の目安	看護活動の実施頻度					到達度					妥当性			妥当でないという理由
				1 全くない	2 ほとんどない	3 時々	4 しばしばある	5 日常的にある	1 一人でできる	2 指導を受けてできる	3 演習でできる	4 知識としてわかる	5 わからない	1 妥当である	2 妥当でない	3 わからない	
看護職としての自覚と責任ある行動	① 医療倫理・看護倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護する	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	② 看護行為によって患者の生命を脅かす危険性もあることを認識し行動する	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	③ 職業人としての自覚を持ち、倫理に基づいて行動する	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
患者の理解と患者・家族との良好な人間関係の確立	① 患者のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	② 患者を一個人として尊重し、受容的・共感的態度で接する	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	③ 患者・家族が納得できる説明を行い、同意を得る	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	④ 家族の意向を把握し、家族にしか担えない役割を判断し支援する	★	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑤ 守秘義務を厳守し、プライバシーに配慮する	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑥ 看護は患者中心のサービスである事を認識し、患者・家族に接する	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
組織における役割・心構えの理解と適切な行動	① 病院及び看護部の理念を理解し行動する	★	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	② 病院及び看護部の組織と機能について理解する	★	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	③ チーム医療の構成員としての役割を理解し協働する	★	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	④ 同僚や他の医療従事者と安定した適切なコミュニケーションを取る	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
生涯にわたる主体的な自己学習の継続	① 自己評価及び他者評価をふまえた自己の学習課題を見つける	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	② 課題の解決に向けて必要な情報を収集し解決に向けて行動する	★	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	③ 学習の成果を自らの看護実践に活用する	★	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	

こちらの回答については、周産期の関連部署に勤務する実地指導者の方のみ回答してください。  
それ以外の方は p.15 にお進みください。

### 3) 助産師に関する到達目標

助産技術についての到達目標①		★1年以内に経験し修得を目指す項目	到達の目安	看護活動の実施頻度					到達度					妥当性			妥当でないという理由
				1 全くない	2 ほとんどない	3 時々	4 しばしばある	5 日常的にある	1 一人でできる	2 指導を受けてできる	3 演習でできる	4 知識としてわかる	5 わからぬ	1 妥当である	2 妥当でない	3 わからない	
				I:できる		II:指導の下でできる			III:演習でできる		IV:知識としてわかる						
妊産婦	① 正常妊婦の健康診査と経過診断、助言	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	② 外診技術(レオポルド触診法、子宮低・腹囲測定、ザイツ法、胎児心音聴取、(ドプラー法、トラウベ))	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	③ 内診技術	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	④ 分娩監視装置装着と判読	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑤ 分娩開始の診断、入院時期の判断	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑥ 分娩第1～4期の経過診断	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑦ 破水の診断	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑧ 産痛緩和ケア(マッサージ、温罌法、温浴、体位等)	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑨ 分娩進行促進への援助(体位、リラクゼーション等)	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑩ 心理的援助(ドゥーラ効果、妊産婦の主體的姿勢への援助等)	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑪ 正常分娩の直接介助、間接介助	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑫ 妊娠期、分娩期の異常への対処と援助	★	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	

I:できる II:指導の下でできる  
III:演習でできる IV:知識としてわかる

助産技術についての到達目標②	★ 1年以内に経験し修得 を目指す項目	到達の目安	看護活動の実施頻度					到達度					妥当性			妥当でない という理由	
			1 全くない	2 ほとんどない	3 時々	4 しばしばある	5 日常的にある	1 一人でできる	2 指導を受けてできる	3 演習でできる	4 知識としてわかる	5 わからない	1 妥当である	2 妥当でない	3 わからない		
新生児	① 新生児の正常と異常との判断(出生時、入院中、退院時)	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	② 正常新生児の健康診査と経過診断	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	③ 新生児胎外適応促進ケア(呼吸・循環・排泄・栄養等)	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	④ 新生児の処置(口鼻腔・胃内吸引・臍処置等)	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑤ 沐浴	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑥ 新生児への予防薬の与薬(ビタミンK2、点眼薬)	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑦ 新生児の緊急・異常時への対処と援助	★	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
褥婦	① 正常褥婦の健康診査と経過診断(入院中、退院時)	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	② 母親役割への援助(児との早期接触、出産体験の想起等)	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	③ 育児指導(母乳育児指導、沐浴、育児法等)	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	④ 褥婦の退院指導(生活相談・指導、産後家族計画等)	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑤ 母子の1か月健康診査と助言		II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	⑥ 産褥期の異常への対処と援助	★	II	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
証明書等	① 出生証明書の記載と説明	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	② 母子健康手帳の記載と説明	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	
	③ 助産録の記載	★	I	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	

4) その他、つけ加えたほうがよいという項目があれば、具体的にお書きください。



厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業  
「新人看護職員研修制度開始後の評価に関する研究」

～質問紙調査にご協力ください～

私は、日本赤十字看護大学の佐々木幾美と申します。今回私たちは、厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業の交付を受け（H24-医療-指定-040）、平成22年度4月から開始された新人看護職員研修事業の評価に関する研究を行っています。新人看護職員研修制度が努力義務となり、研修体制を整備するために新人看護職員研修ガイドライン（以下、ガイドライン）が作成されました。新人看護職員研修制度開始から3年目を迎えるにあたり、ガイドラインの見直しや研修の普及方法を検討して、新人看護職員研修をよりよくしていきたいと考えています。

そこで、今回、新人看護職員研修制度開始後の研修の実態と研修に対する意識や実施上の課題を明らかにし、新人看護職員研修のさらなる普及方法を検討するために、新人看護職員として研修を受けておられる皆さまに、質問紙調査を行わせていただきたいと思います。

質問紙調査への参加は任意で、質問紙の返送をもって本調査への同意が得られたものとさせていただきます。本調査の発送、集計および分析は、個人情報保護方針を公表している株式会社山手情報処理センターに委託しております。回答は無記名により行い、回答いただいたデータは研究目的のみに使用し、日本赤十字看護大学佐々木研究室にて管理いたします。研究終了後は、研究対象施設に関するデータを匿名化したまま破棄をいたします。また、貴施設や個人に関する情報はすべて匿名化されますので、プライバシーが侵害される恐れはありません。研究結果につきましては、厚生労働科学研究費補助金報告書、学術集会、専門学会誌、関連領域での機関誌等で公表させていただく予定です。また、HP上で報告書が閲覧できるように計画しております。

日々の業務にお忙しいとは思いますが、ぜひとも本調査の趣旨をご理解いただき、新人看護職員研修制度のさらなる充実のため、皆さまのご意見をお聞かせ下さい。ご協力をよろしくお願いいたします。

回答に要する時間はおよそ30分です。

【質問紙の回収について】

返送用封筒に入れていただき、ご自身で投函してください。

平成25年1月25日（金）までに、ご投函いただけますようお願いいたします。

【お問い合わせ先】

本研究に関して、ご不明な点やお気づきの点等がありましたら、以下までご連絡ください。

佐々木幾美 TEL 03-3409-0722（直通） E-mail i-sasaki@redcross.ac.jp

<研究組織>

研究代表者：佐々木幾美（日本赤十字看護大学）

研究分担者：藤川 謙二（日本医師会）・西澤 寛俊（全日本病院協会）・小松 満（全国有床診療所連絡協議会）

洪 愛子（日本看護協会）・熊谷 雅美（済生会横浜市東部病院）・西田 朋子（日本赤十字看護大学）

研究協力者：渋谷 美香（日本看護協会）・藤尾 麻衣子（武蔵野大学）・前田 律子

## —新人看護職員研修に関する実態調査—

この調査票は、**新人看護職員**の皆さまにお答えいただく質問紙です。

以下の質問について、該当する項目に○印を記入、( ) 内には具体的な記述をお願いいたします。

なおこの質問紙で「**実地指導者**とは、部署において新人看護職員に対し、直接的な指導を担っておられる立場の方」、「**教育担当者**とは、各部署で新人看護職員の研修の企画・運営や実地指導者へのサポートを担っている方」のことで

### I. 新人看護職員研修ガイドラインに関してお答えください。

Q1 ガイドラインを知っていますか。

1. はい      2. いいえ

Q2 ガイドラインを読んだことはありますか。

1. はい      2. いいえ

Q3 ガイドラインに示された、「**研修責任者**」「**教育担当者**」「**実地指導者**」の言葉を聞いたことはありますか。

1. はい      2. いいえ

Q4 ガイドラインに示された、「**研修責任者**」「**教育担当者**」「**実地指導者**」の役割を知っていますか。

1. はい      2. いいえ

### II. あなたの背景についてお聞きいたします。該当する項目に○印をつけ、( ) 内には具体的な内容を記入してください。

Q5 あなたの所属する部署の診療科について、最もよく表わしているのは下記のどれですか。

(1つだけ選択)

- |                       |                           |           |
|-----------------------|---------------------------|-----------|
| 1. 一般内科・外科            | 2. クリティカル・ケア (ICU、CCU など) | 3. 救急部門   |
| 4. 小児科                | 5. 周産期                    | 6. 精神、神経科 |
| 7. 療養型                | 8. リハビリテーション              | 9. 緩和ケア   |
| 10. その他 (具体的にお書きください) |                           | )         |

Q6 あなたの受けた看護基礎教育機関 (看護師免許を取得するための教育機関)

1. 看護学校・養成所等      2. 看護短期大学      3. 看護系大学  
4. その他 (具体的にお書きください)      )

**Q7 あなたが持っている医療福祉系の資格**

1. 看護師      2. 保健師      3. 助産師      4. 准看護師  
5. その他（具体的にお書きください）

**Q8 あなたの勤務形態について、最もよく表しているのは下記のどれですか。**

（1つだけ選択）

1. 交代制（2交代、3交代など）      2. 日勤のみ      3. 夜勤のみ

**Q9 あなたの所属部署において、新人研修期間として設定されている期間はどのくらいですか。**

1. （      ）年（      ）か月      2. 設定されていない

**Ⅲ. 研修受講状況、あなたが所属している施設での研修状況についてお伺いいたします。**

**Q10 所属している施設では、新人看護職員研修のプログラムがありますか。**

1. ある      2. ない

→ あると答えた方は、あなたが参加した研修内容について具体的にお書きいただき、主催者、参加形態、参加費負担については、該当する項目に「O」をつけてください。

研修内容	期間(日) ・時間	主催者	参加形態	参加費の負担
		1. 施設内 2. 施設外 (      )	1. 勤務扱い 2. 勤務扱いで <u>ない</u>	1. 全額負担 2. 一部負担 3. 無
		1. 施設内 2. 施設外 (      )	1. 勤務扱い 2. 勤務扱いで <u>ない</u>	1. 全額負担 2. 一部負担 3. 無
		1. 施設内 2. 施設外 (      )	1. 勤務扱い 2. 勤務扱いで <u>ない</u>	1. 全額負担 2. 一部負担 3. 無
		1. 施設内 2. 施設外 (      )	1. 勤務扱い 2. 勤務扱いで <u>ない</u>	1. 全額負担 2. 一部負担 3. 無
		1. 施設内 2. 施設外 (      )	1. 勤務扱い 2. 勤務扱いで <u>ない</u>	1. 全額負担 2. 一部負担 3. 無
		1. 施設内 2. 施設外 (      )	1. 勤務扱い 2. 勤務扱いで <u>ない</u>	1. 全額負担 2. 一部負担 3. 無

Q11 新人看護職員研修のための準備状況についてお書きください。

1) 新人看護職員研修で活用できる物品・学習環境は十分に確保されていますか。

(1) 備品 (例; 技術練習を行うためのシミュレーター、視聴覚教材、図書等) について

1. 十分に確保されている  
2. 不足している -----> 不足している物について具体的にお書きください  
 3. 準備されている ( )

(2) 衛生材料等消耗品 (例; 技術練習を行うとき等に使用する、使い捨ての物品) について

1. 十分に確保されている  
2. 不足している -----> 不足している物について具体的にお書きください  
 3. 準備されている ( )

(3) 学習環境について

a. 図書室 (院内)	1. 十分	2. 不足	3. ない
b. 図書館 (施設周辺)	1. 十分	2. 不足	3. ない
c. インターネット環境	1. 十分	2. 不足	3. ない
d. 学習室: 新人看護職員が自己学習等 をすることのできる部屋 (自習室など)	1. 十分	2. 不足	3. ない
e. 研修室: 新人看護職員への研修等 を実施することができる部屋 (シミュレーション室、講義室など)	1. 十分	2. 不足	3. ない

Q12 あなたを直接指導する看護職員について、該当する番号に○印をつけてください

1. 指導する看護職員は固定して決まっている      2. その日の勤務者の中で指導者を決める

Q13 研修手帳 (研修ファイル) 等が準備されていますか。

1. ある      2. ない

Q14 研修手帳 (研修ファイル) 等を活用していますか。

1. 活用している      2. 一部活用している      3. 活用していない

Q15 新人研修期間中に受けた研修方法や評価について該当するものはどれですか。(複数選択可)

1. 集合型講義研修      2. 集合型技術研修      3. OJT (業務をしながらの指導)  
 4. 新人業務マニュアルを用いた指導      5. チェックリストを利用した評価  
 6. ローテーション研修 (1つの部署にとどまらず、複数の病棟や手術室、外来などを一定期間 (月単位等) で変わり、様々な部署を経験する研修)  
 7. シャドウイングを中心とした指導  
 8. その他 (具体的に )

Q16 知識・技術等の到達目標に対する評価について、該当する番号に○印をつけてください。

1) 評価時期

1. 定期的に行う -----> 

①毎週	②毎月	③2か月に1度	④3か月に1度	⑤その他 ( )
-----	-----	---------	---------	----------
2. 新しい技術を行った時から習熟に合わせて行う
3. 特に決まっていない

2) 評価方法

1. 指導者が評価する
2. 自己評価したものを指導者が確認する
3. 自分で確認するのみ

→ 指導者とは具体的に誰ですか\*

①その日の指導者

②決められた実地指導者

③教育担当者

\* 「実地指導者とは、部署において新人看護職員に対し、直接的な指導を担っておられる立場の方」、「教育担当者とは、各部署で新人看護職員の研修の企画・運営や実地指導者へのサポートを担っている方」のことです

Q17 あなたの所属する施設での新人看護職員研修についてご要望等がありましたら、お書きください。

1) 研修プログラムについて

[ ]

2) 研修のための準備状態（備品、衛生材料、教育環境）について

[ ]

3) 研修体制について

[ ]

4) その他

[ ]

IV. 新人看護職員研修ガイドラインで示されている到達目標についてお伺いします。

Q18 下記の内容は新人看護職員研修ガイドラインで示されている到達目標です。あなたの看護活動における実施頻度と自らの到達度、看護基礎教育での学習状況について、お答え下さい。

※患者への看護技術の実施においては、高度な又は複雑な看護を必要とする場合は除き、比較的状態の安定した患者の看護を想定しています。なお、重症患者等への特定の看護技術の実施を到達目標とすることが必要な施設、部署においては、想定される患者の状況等を適宜調整することとされています。

看護技術についての到達目標①		看護活動の実施頻度					到達度					基礎教育での学習			
		1 全くない	2 ほとんどない	3 時々	4 しばしばある	5 日常的にある	1 一人でできる	2 指導を受けてできる	3 演習のできる	4 知識としてわかる	5 わからない	1 講義のみ受けた	2 学内で演習までした	3 実習で実施した	4 学習していない
環境調整技術	① 温度、湿度、換気、採光、臭気、騒音、病室整備の療養生活環境調整（例：臥床患者、手術後の患者等の療養生活環境調整）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	② ベッドメイキング（例：臥床患者のベッドメイキング）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
食事援助技術	① 食生活支援	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	② 食事介助（例：臥床患者、嚥下障害のある患者の食事介助）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	③ 経管栄養法	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
排泄援助技術	① 自然排尿・排便援助（尿器・便器介助、可能な限りおむつを用いない援助を含む）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	② 洗腸	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	③ 膀胱内留置カテーテルの挿入と管理	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	④ 摘便	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	⑤ 導尿	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4

看護技術についての到達目標②		看護活動の実施頻度					到達度					基礎教育での学習			
		1 全くない	2 ほとんどない	3 時々	4 しばしばある	5 日常的にある	1 一人でできる	2 指導を受けてできる	3 演習でできる	4 知識としてわかる	5 わからない	1 講義のみ受けた	2 学内で演習までした	3 実習で実施した	4 学習していない
活動・休息援助技術	① 歩行介助・移動の介助・移送	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	② 体位変換（例：①及び②について、手術後、麻痺等で活動に制限のある患者等への実地）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	③ 関節可動域訓練・廃用性症候群予防	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	④ 入眠・睡眠への援助	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	⑤ 体動、移動に注意が必要な患者への援助（例：不穩、不動、情緒不安定、意識レベル低下、鎮静中、乳幼児、高齢者等への援助）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
清潔・衣生活援助技術（例：①から⑥について、全介助を要する患者、ドレーン挿入、点滴を行っている患者等への実施）	① 清拭	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	② 洗髪	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	③ 口腔ケア	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	④ 入浴介助	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	⑤ 部分浴・陰部ケア・おむつ交換	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	⑥ 寝衣交換等の衣生活支援、整容	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
呼吸・循環を整える技術	① 酸素吸入療法	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	② 吸引（気管内、口腔内、鼻腔内）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	③ ネブライザーの実施	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	④ 体温調整	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	⑤ 体位ドレナージ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	⑥ 人工呼吸器の管理	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4